

# 単元の指導計画(例)

小学校第3学年 算数「あまりのあるわり算」(全10時間)

※単元の展開計画と単元の評価計画を合わせたものが、単元の指導計画です。

単元の目標		単元の評価規準		
<p>(1) 割り切れない場合の除法の意味や余りについて理解し、それが用いられる場合について知り、その計算が確実にできる。</p> <p>(2) 割り切れない場合の除法の計算の意味や計算の仕方を考えたり、割り切れない場合の除法を日常生活に生かしたりすることができる。</p> <p>(3) 割り切れない場合の除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとしている。</p>		<p><b>知識・技能</b></p> <p>① 包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知っている。</p> <p>② 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。</p> <p>③ 割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。</p>	<p><b>思考・判断・表現</b></p> <p>① 除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現している。</p> <p>② 余りのある除法の場面に応じて考えている。</p>	<p><b>主体的に学習に取り組む態度</b></p> <p>① 除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現しようとしている。</p> <p>② 除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えようとしている。</p>
時	単元の展開計画	単元の評価計画		
1	余りがある場合でも除法を用いてよいことや答えの見つけ方を具体物や図などを用いて考える。(包含除)		・思①(行動観察、ノート分析)	・態①(行動観察、ノート分析)
2	余りがある場合の除法の式の表し方や余りなどの用語の意味を知る。	・知①(ノート分析)		
3	余りと除数の関係を理解する。	・知③(ノート分析)		
4	等分除の場面についても余りがある場面の除法が適用できるかを考える。		○思①(行動観察、ノート分析)	
5	割り切れない場面の除法計算について、答えの確かめ方を知る。	・知②(ノート分析)		
6 7	日常生活の場面に当てはめたときに、商と余りをどのように解釈すればよいかを考える。		・思①(行動観察、ノート分析)	○態①(行動観察、ノート分析)
8	学習内容の定着を確認する章末問題に取り組む。	・知①②③(ノート分析)		
9	単元全体の学習内容についてのテストに取り組む。(評価テスト)	○知①②③(ペーパーテスト)	○思②(ペーパーテスト)	
10	学習内容を適用して除法の問題を考えたり、解決し合ったりする。			○態②(ノート分析)

※指導の改善に生かす評価の機会については「・」

※総括の資料とするための評価として、全員の学習状況を記録に残すものは「○」で示している。

「指導の改善に生かす評価」とは、授業中に努力を要する児童生徒を確認し、その後の指導に生かすために行うもの。

「総括の資料とするための評価」とは、単元における観点別学習状況評価を行うため、学級全員の児童生徒の学習状況を評価して、記録に残していくもの。(指導要録や通知表の資料とする。)